



## 幸せの「瞬間」を～お年寄りに～



国	籍	モンゴル
職	種	介護
実習実施者		医療法人ハインス ライフ
監理団体		GTS協同組合

### トゥムルトラグ オトゴントヤ TUMURTULGA OTGONTUYA

私たち人間は、人生の中で、いつも幸せだとは限りません。でも、幸せの「瞬間」は必ずあります。「たとえ人生の中に困難な時があっても、それを乗り越えて幸せな瞬間を作るのは自分だ。」私は、そう父に教わりました。父は優秀なエンジニアで、ユーモアのある人でした。子供の時、私が着ていた洋服にあきると、父はデザインを変更して、私が気に入る洋服に作り直しました。エンジニアらしい行動です。無限に優しい父は、給料日に決って2m幅の服地を買ってきます。母が7歳の時に買ってもらった、古ぼけたミシンがあります。父のプレゼントは母がすぐに素敵なお子服にしてくれます。

私は父がプレゼントして母が縫ってくれたスカートを履いて、モデルさんのように、ファッションショーをします。観客は二人だけです。父はニコニコするだけ。いつもの様に何も言いません。私の人生の幸せの「瞬間」です。

ある日、黒い布でズボンを縫ってもらいました。ところが、サイズの計算が間違っていて、足が入りません。「大丈夫。もう一度、新しい布を買ってあげよう。もう一回作ればいいんだ」と父は言いました。優し過ぎる父の言葉

が、心から嬉しかった。これも幸せの「瞬間」です。

ある日、父はワルツのダンスを教えると言うのです。毎晩ダンスの練習です。父はいつものように黙って見ているだけ。本当は、踊る娘を見ていたかっただけなのかも知れません。これも父がくれた人生の幸せの「瞬間」です。父からどれだけたくさんの幸せの「瞬間」をもらったのか、計り知れません。

今、私は日本に来て9ヵ月になります。世界で最も平均寿命の長い日本に来て、長生きのお年寄りのお世話をしています。お話しする時、私は何か有名人になった気がします。それは、世界に誇る安全な社会、豊かな経済、親切な人々、今の素敵なお日本を作った高齢のヒーロー、ヒロインと毎日お話ししているからです。

いつも食事介助する女性のAさん。Aさんも、今の日本を作ったヒロインの一人です。他の職員が食事介助している時、私が近くを通るとAさんは、必ず微笑みます。私も微笑みを返します。モンゴル人の私と日本人のヒロインは、もう一つになっています。首をふりふりボディランゲージで話すと、目を大きく開いて笑顔で応える男性のBさん。Bさんは、私が1日施設を離れただけで、「どこへ行ってたの？写真見せて」とすぐ声をかけてきます。今の私の日本語はとても下手です。優しい職場の先輩たちとお年寄りに支えられて介護の仕事をする私は幸せです。ちょっぴり日本語が上手になった気がします。私はもっと日本語を勉強して、父に教えてもらったように、幸せの「瞬間」をお年寄りたちに、たくさん届けようと思います。